

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 8月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	0177100260		
法人名	有限会社 フローラ		
事業所名	グループホーム 上砂川		
所在地	空知郡上砂川町下鶉南2条1丁目3番地 電話 0125-62-5252		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年7月27日	評価確定日	平成21年8月10日

【情報提供票より】 (平成21年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 2月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	18人	常勤	13人、非常勤 5人、常勤換算 13人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000円	その他の経費(月額)	光熱水費:25,000円 暖房費:(10-4月):10,000円	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(20,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有(期間:入居時一括償却)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800円	

(4) 利用者の概要 (6月1日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	1名	要介護2	12名		
要介護3	5名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 79歳	最低	65歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	明円医院、砂川ファミリー歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム 上砂川」は、車道から奥まった下鶉団地の一角にある。玄関前は広く、建物の裏には畑があり利用者は菜園づくりを楽しんでいる。道外にある法人の運営者は年に数回来訪し、ホームの生活を管理者に一任している。管理者、職員は「家族のような当たり前の生活」を大切にしている。同地域に住んでいる管理者は、外食や遠出には利用先の送迎サービスを依頼し、人脈を生かしながら利用者の希望を叶えている。また、開設から5年が経過し、利用者が行きたいところに出かけ、好きなものを食べ、自由に過ごせる環境を継続するために、利用者の思いに十分添えるような職員の業務体制にも取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の課題で、災害対策での住民協力は地域性の問題点があり具体的な解決にまで至っていない。栄養バランスについては、月ごとに本社に食材の資料を送り適切なアドバイスを受けている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が自己評価の目的を説明し、項目ごとに職員から意見を聞きそれらをまとめた。自己評価ではケアなどの対応について改善を図り、今後はサービスの質を高めるため全職員が研修に参加できるような業務体制についても検討したいと考えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催している。家族の事情もあり現在は参加していないが、利用者の参加はある。利用者の状態や行事などを報告し、外部評価の結果報告もしている。利用者が自主的に行う当事業所周圍の草刈りや雪投げなどが近所に影響を及ぼしている点や地域の問題点を議題にあげ、意見交換をしながら改善に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時に本人の状態を報告しているが、来られない家族には毎月送るホーム便り「わけわかめ」に手紙を添えている。家族が言い易い雰囲気をつくり、意見を直接話してもらえ関係構築している。地域の人や家族からの苦情、意見などは申し送りノートに記録している。その内容を職員は共有し、苦情があった場合は対応や改善策を会議で確認している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域行事のお祭り、敬老会、高齢者誕生会、カラオケ愛好会などに参加している。事業所裏の畑で近所の人と一緒に関与を一緒に野菜作りを手伝ってくれたり、漬物をお裾分けしてくれるなど身近な交流も常にある。今後も地域密着型サービスの視点に沿っての対応を考えている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は開設時に作った内容を分かりやすく文書化し、「心も体もゆったりと楽しく安心して自分らしく暮らせるよう援助する。」と掲げている。現在、地域密着型サービスとしての視点を理念に盛り込む方向で検討している。	○	住民との身近な関わりを実践しているので、その地域に密着した支援を理念に加えることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各ユニットの居間に掲示し、入居案内のしおり、管理者の名刺にも記載し周知している。職員採用時や会議などで理念に触れ、利用者が楽しく安心して過ごしているかを確認している。	○	地域密着型サービスとしての文言を入れた理念を職員全員でつくりたいとのことであり、理念づくりを通して認識を深めることを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年と同様、地域行事のお祭り、敬老会、高齢者誕生会、カラオケ愛好会などに参加している。事業所裏の畑で近所の方が利用者と一緒に野菜作りを手伝ってくれたり、漬物をお裾分けしてくれるなど自然な付き合いがある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が自己評価の目的を説明し、項目ごとに職員から意見を聞きそれらをまとめた。事業所内に掲示し閲覧できるようにしている。自己評価ではケアなどの対応について改善を図り、外部評価での課題は継続して改善策を考えているところである。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催している。家族の事情もあり現在は参加していないが、利用者の参加はある。利用者の状態や行事などを報告し、外部評価の結果報告もしている。事業所や地域の問題点を議題にあげ、意見交換をしながら改善に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	用事がある時に管理者が町役場を訪問し、担当者からも入居についての相談がある。市が運営する看護学校の実習生を多数受け入れ指導している。生活保護担当の来訪は支庁から半年に1回ほどあり、情報を交換している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪はユニットによって頻度の差はあるが、その時に本人の状態を報告している。来られない家族には毎月送るホーム便り「わけわかめ」に手紙を添えている。必要な時は手紙や電話でも確認している。職員の交代はホーム便りに載せて報告したいと考えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に話しやすい雰囲気をつくり、意見を直接話してもらえる関係を築いている。地域の人や家族からの苦情、意見などは申し送りノートに記録し、職員は内容を確認している。苦情があった場合は会議で改善を話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動はない。管理者が辞める時は家族に手紙でも報告し、利用者と一緒に写真をとるなど退職を理解してもらっている。職員が辞める時は分かる人に説明しており、特に利用者のダメージなどは見られない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	医療連携研究会での研修会に管理者が参加している。身体拘束、高齢者虐待、成年後見、在宅酸素療法など、管理者が中心に参加し、全職員が参加するまでに至っていない。外部研修の内容は報告や閲覧で共有し、業務内での必要なトレーニングは行っている。	○	研修の情報をその都度渡し参加者を決めている状況で、職員の配置から受講できない現状もある。運営者と管理者が職員の育成に一体となり、経験年数に応じて全職員が参加できるような業務体制を考慮した研修計画の策定に期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上砂川認知症の会に入会し、管理者はネットワークを作り、市民を対象にした勉強会に関わっている。近隣の市で行われるケアスタッフ研修会には一部の職員が参加している。同業者との研修会や交流会に職員が十分に参加ができるような勤務体制の工夫も考えているところである。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学を勧め、本人が好きな料理と一緒に食べ、ホームの生活を体験してもらっている。入院中など来訪が難しい時は、管理者が訪問し安心できるように配慮している。納得のないまま入居に至った場合は、職員の声かけを多くし希望を聞きだしたり、不安に思うことに付き合ったりして対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の生活歴から出来ることを生かし、野菜の切り方、下ごしらえ、味付の仕方や畑仕事、ホーム周囲の草刈り、雪かきなどを利用者のやり方で教わっている。精神的な面では特に、夜勤の時に利用者が話しかけて慰めてくれるなど常に支え合う関係を築いている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中に出たおにぎり持参で花見に行く、バイキングなどの外食に出かけるなどの希望で、可能なことは即対応している。意思表示が困難な人には問いかけで試し、表情や頷くなどの態度から思いを把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時の介護計画は、利用者や家族の意向、医療機関からの情報を基に、計画作成担当者が課題を中心にして介護計画を作成している。暫定的な介護計画は1ヶ月後に見直しを行い、本計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、基本的に2～3ヶ月で見直しを行っている。入退院などにより身体的な変化や精神的な変化があった時や、元気になり課題が達成された時など、利用者の状況に応じて現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況により、職員が受診支援を行っている。訪問や電話による地域の介護相談を受け、認知症に関する事や介護についての相談などに柔軟に対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始後もかかりつけ医の受診継続は可能となっているが、送迎は家族対応を基本としている。家族が同行してかかりつけ医を受診する時は、受診前に、事業所から利用者の状況を電話で連絡するなどかかりつけ医と事業所との関係作りに配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針は文書化していないが、看取りを行った実績はある。継続的な医療行為が必要になった時は、事業所での生活を継続する事は困難になり退去となる事を利用開始時に家族に説明している。	○	重度化や終末期に向けた事業所の方針を文書化し、利用開始時に家族や本人に説明をして署名捺印をもらい、家族と方針を共有して行く事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄に関する言葉がけに配慮すると共に、利用者の誇りを損ねるような命令調な言葉や禁止的な言葉は使わないように配慮している。職員の言葉使いに対しては、管理者が個別に指導したりミーティングなどで取り上げて全職員に指導している。	○	プライバシーの面から、一覧式の面会簿を廃止して、業務日誌に職員が記録する方法に変更する予定との事なので、その取り組みを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間はある程度決められているが、他の日課は決められていない。利用者が週刊誌やテレビを見たり、パズルやお手玉、花札など自由に楽しめるよう工夫がなされている。就寝時間も自由で、夜遅くまで居間や居室で好きなテレビを楽しんでいる利用者もいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を聞きながら当日決めている。調理する前の魚や野菜などそのままの姿を利用者に見てもらい、食事の出来上がりが楽しみになるような工夫をする事もある。下ごしらえや下膳、食器洗いなどそれぞれの利用者の状態に合わせて手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中から夕方まで希望があればいつでも入浴出来るよう工夫し、それぞれの利用者が週2回以上入浴出来るよう配慮している。入浴拒否者には、時間を変えて声かけしたり、状況により足浴や清拭などを行い、清潔面に配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時や普段の会話の中から利用者の得意な事や好きな事を把握して、生活歴や力を活かした楽しみ事が出来るよう声かけや環境設定をしている。パズルや編み物、裁縫、畑仕事など趣味を生かした気晴らしが出来るよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出は職員の配置により難しい面もあるが、庭で日光浴をしたり出来るだけ戸外に出られるよう支援している。	○	介護度が高くなり自力での外出が難しくなっているため、利用者の気晴らしや楽しみのためにも、日常的な散歩や定期的な外出が出来るような職員体制や移動手段などの検討を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にチャイムなどは設置していないが、日中は施錠は行っていない。利用者が外出した時は、さり気なく声かけをしたり、後ろから見守り安全面に配慮している。利用者の状況に応じ、ソファなどの配置を変えて出入り口の安全を確保している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回昼夜それぞれを想定した避難訓練や消化器の使い方の講習を行っている。職員の災害時連絡網を作成し役割分担を決めている。各職員は災害時の役割を把握している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量や水分摂取量を個別に記録して情報を共有している。職員は、簡単なカロリー計算をして献立を作成し、個々の利用者の嗜好を把握しながらバランスの良い食事を提供出来るよう工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に季節の花を意識的に飾り、季節感を感じる事が出来るよう配慮している。カウンター式の台所で、食事の支度や後片づけをしながら利用者と職員が会話を交わす事ができ、家庭的で生活感を感じる事が出来る共有空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはクローゼットと物干し竿が準備され、自分の洗濯物を干す事が出来るようになっている。タンスや椅子、ベッドや仏壇などそれぞれの利用者の使い慣れた物や好みの物が持ち込まれ、自由に落ち着いて居心地良く過ごせるよう工夫がなされている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。